

インドネシア総選挙について

[VOL.30](#) のレポートでもお伝えしましたが、4月9日にインドネシア総選挙が行われました。この総選挙は大統領選挙の前哨戦にもなっており、有権者数は約1億9千万人とも言われ、インドネシア全土で注目されています。インドネシアでは560議席を総選挙で争い、20%以上の議席数か全体の25%以上の票を獲得した政党、もしくは政党連合が大統領選挙に正副大統領候補者を擁立できる仕組みになっています。

選挙前には世論が期待していた現ジャカルタ市長であるジョコ・ウィドド氏を闘争民主党が擁立するとの発表があり、調査会社が行った世論調査でも闘争民主党の支持率は20%と一番の人気でした。反対に現大統領のユドヨノ氏が率いる民主党は幹部の汚職問題などから10%の支持率（支持率で言うと6番目）でした。今回の総選挙結果については5月上旬に選挙管理当局より発表予定になっていますが、メディアによる出口調査や調査機関による開票速報は既に発表されています。オフィシャルな情報ではありませんが直近の情報としてご案内いたします。

第一党として得票率を獲得しているのは闘争民主党で得票率は19%、概ね事前の世論調査の通りの結果にはなりましたが、闘争民主党としては目標値を27%としていただけに厳しい結果と受け止めているようです。第二党はスハルト長期政権を支えていたゴルカル党で15%、続いて前選挙で議席を得られなかった小政党を吸収して大きくなったグリンドラ党が12%。その後に民主党が10%を獲得していると伝えられています。现阶段の情報では第一党を獲得したとみられる闘争民主党でも大統領候補者の擁立ができないため、連立交渉に注目が集まることになると考えられます。インドネシアでは大統領が閣僚の指名権等を持っているため、副大統領や重要なポストを材料に自党にとって有利な連立交渉を行う事になるはずです。



(JC スタッフが行った選挙会場)



(会場には候補者一覧の張出し)



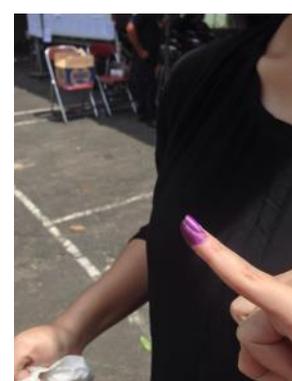
(投票所内)



(投票箱 (国会・州議会・地方議会))



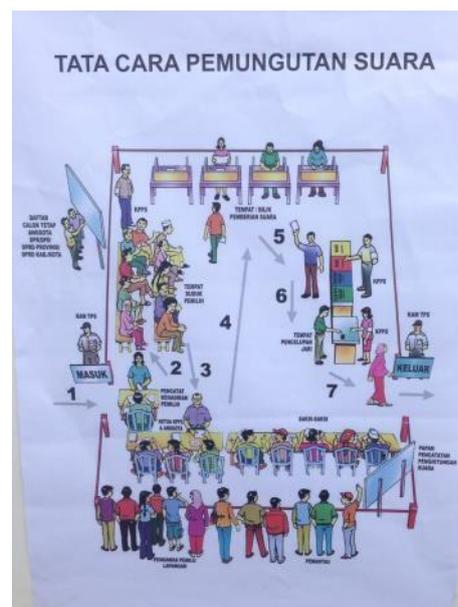
(投票後には二重投票防止のインクを付ける)



(インク着色)

インドネシアでは、地域によってきちんとした投票会場を設ける場所もあれば、学校の校庭を利用したり、畑に急遽会場を設置したりなど、日本では考えられないようなことがまだまだ行われています。会場には投票までの流れが分かりやすいように、イラストでの説明書きポスターが掲示されていました。(右図)

今回の総選挙が今後のインドネシアを大きく左右するものであっても投資の影響を直接受けていないインドネシア国民にとって選挙自体はまだまだお祭りであり、自分の一票の大事さには気付いていないかもしれません。



以上

<これまでの岡山県インドネシアビジネスサポートデスクレポートは[こちら](#)から>

★岡山県インドネシアビジネスサポートデスク (P.T. J C内) 概要★

所在地：WISMA NUSANTARA BUILDING 24th Floor

Jl. M. H Thamrin Kav 59 Jakarta Pusat Indonesia 10350

デスク担当者：PT.JC 武井 和宏 (たけい かずひろ)

対象エリア：インドネシア全域

※「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のインドネシアでの事業展開を支援しています(岡山県から[公益社団法人 日本インドネシア経済協力事業協会](#)に業務を委託)。ご利用に当たっては、「[岡山県インドネシアビジネスサポートデスク](#)」利用の手引きをご覧のうえ、[岡山県産業企画課マーケティング推進室](#)(電話 086-226-7365)までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のインドネシアでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応しておりません。